

平成 24 年 5 月 16 日

各位

会社名 アンジェス MG 株式会社
代表者 代表取締役社長 山田 英
(コード番号 4563 東証マザーズ)
問合せ先 社長室長 鈴木 文彦
電話番号 03-5730-2641

森下仁丹との共同研究開発取組みに関するお知らせ
～シームレスカプセル技術を応用した医薬品開発プロジェクト～

当社は、株式会社ジェノラックBL(本社:沖縄県那覇市/代表取締役社長:瀬脇智満)と韓国の BioLeaders Corporation(本社:大韓民国/代表取締役社長:成文喜)および東京大学産科婦人科学の川名敬講師(同大学病院女性外科病棟医長)との間で、子宮頸がんの前がん病変に対する経口ワクチンによる子宮頸がん治療ワクチンの共同開発を進めてまいりましたが、今般、森下仁丹株式会社(本社:大阪府中央区/代表取締役社長:駒村純一)が同プロジェクトに参画し、共同研究を進めることになりましたのでお知らせいたします。

子宮頸がんの原因ウイルスであるヒトパピローマウイルス(HPV)は、前がん病変の初期段階から検出され、その後、子宮頸部上皮内腫瘍性病変と進むにつれHPVのがん関連蛋白質の発現が増加し、子宮頸がんへと進展します。

当社とジェノラックBLが開発する乳酸菌を利用した治療ワクチンは、HPVの発がん蛋白質に対する特異的な細胞性免疫を子宮頸部へ効率的に誘導することで、子宮頸がんへの移行を回避できる画期的な世界初の治療ワクチンとして期待されています。

子宮頸がんで子宮頸部円錐切除術を行った患者は、その後の早産、低出生体重、帝王切開のリスクが高まることが報告されており、子宮頸部円錐切除術を回避できる意義は大きいことから、他に前がん病変に対する治療法がない現実に鑑み、本治療ワクチンの早期実現が期待されます。

本開発は経口投与したワクチンが胃酸の影響を受けないよう、森下仁丹が有する腸溶性シームレスカプセルに包み、効果的なDDSを目指すものです。この腸溶性シームレスカプセル技術は、既に森下仁丹と神戸大学医学部の白川利朗准教授らのグループとの経口感染症ワクチンプロジェクトや、当社が開発するNF- κ Bデコイオリゴを用いた潰瘍性大腸炎治療の核酸医薬プロジェクトにも応用されています。

このように、アンジェス MGが開発した医薬品素材に森下仁丹によるカプセル化技術を適用することで付加価値の高い医薬品製剤を提供することが可能となりますので、両社はこの共同開発を推進し、早期実用化を目指して参ります。

本件による本年度の業績に与える影響は軽微であり、公表値に変更はありません。

以上